

# Tezukayama

## 大学通信帝塚山

### 【特集】 世界へトビタテ！帝塚山大生



本学初!! トビタテ! 留学JAPANに採用 (詳細はP.2に掲載)

- 02 特集
- 04 IRレポート
- 06 キャンパスレポート
- 08 クラブ・サークル活動
- 10 地域連携 最新の取り組み
- 11 多摩大学との大学連携
- 12 就職支援の取り組み
- 13 後援会(在校生保護者)の皆様へ
- 15 卒業生紹介
- 16 帝塚山 NEWS&TOPICS
- 18 クローズアップニュース
- 19 お知らせ・イベントニュース



トビタテ！  
留学JAPANとは…

独立行政法人日本学生支援機構が推進する令和元年度後期(第11期)官民協働海外留学支援制度「トビタテ!留学JAPAN」の略称であり、このたび現代生活学部こども学科4年の吉岡知美さんが、厳正なる審査の結果、見事採用されました。これは、本学にとって初の快挙となります。本制度は、企業インターンシップや学生自らが立案したプロジェクト等、「実践活動」に焦点を当てた留学を推奨することにより、多様な経験と自ら考え行動できるような体験の機会を提供し、多様な経験を積んだ個性あふれる留学生のネットワークを形成することで、学生自らの情報発信活動を通じ、海外留学の機運の更なる醸成に寄与することも狙いとされています。

## 海外インターンシップ(イオン銀行)に参加



今後働いていく上でグローバルな人材は不可欠であると強く感じました

SUGIHARA TAKATO  
**杉原 隆斗さん**  
経済学部経済学科 3年

### 参加を決めたきっかけは？

**A** 参加を決めたきっかけは3つあります。1つ目は、私は現在3年生になりますが、国内外問わずインターンシップに一度も参加したことがなかったので、どのようなものかを実際に経験してみたいと思いました。2つ目は海外、特に発展途上国に大変興味があったからです。これまで海外へ行ったことがなく、発展途上国の現状を実際に見てみたいと思い、今回のマレーシアにも参加を希望しました。そして最後に、自分自身の成長につながると思ったからです。学生生活も3年が過ぎ、普段とは違った環境で自分自身をさらに成長させたいという思いが強かったからです。



### 活動を終えた感想は？

**A** 海外インターンシップはとても楽しく、他大学の学生と共に過ごすことで、自分の中での意識レベルが大きく変わりました。また、初めての海外ということもあり、宿泊していたホテルも豪華で屋上にプールやジャグジーがあるなど、都心部にある高層ビルで夢のような時間を過ごしました。しかし、その恵まれた環境の中、与えられた時間内で最終的に難易度の高いプレゼンテーションをしなければなりません。研修の前半にあたるマレーシアでは、ダラダラと先送りしてしまった結果、時間を有効活用できずに挙句には睡眠時間も短くなるなど、不十分な状態で挑みました。後半の東京で行われた研修ではその反省を生かし、時間の有効活用や研修に対する積極的な姿勢など、自分自身の意識レベルがインターンシップに参加する前と比べ格段に変わっていることに気づきました。



### 今後の展望について教えてください

**A** 具体的にはまだ決めていませんが、残りかぎられた学生生活の中で自分の興味のあるインターンシップに参加して学びたいと思っています。例えば、イオン銀行のような新しい銀行ビジネスを行う企業やビッグデータを用いた事業戦略を行う企業、そしてエグゼクティブアシスタントという職業にも興味があるので、これらをインターンシップ等で経験したいと思います。今後海外で働いてみたいという気持ちは今のところなのですが、今回海外インターンシップに参加したことで、働いていく上で英語や中国語などの外国語を話せるグローバルな人材は不可欠であると強く感じたので、自分もそういった人材になれるよう今後も努力していきたいと思っています。

## 海外インターンシップ(イオン銀行)に参加



自主性を持ちながらもグループワークでは協調性も大切であると実感

SAKAGUCHI TATSUYA  
**坂口 達哉さん**  
経済学部経済学科 3年

### 参加を決めたきっかけは？

**A** 海外で株式を上場している日本企業イオンクレジットサービス(マレーシア)に参加を決意したのは、まず海外で働くということが実際にはどのようなものかや日本との違いを自ら体験したいという思いがあったからです。何よりも海外に行った経験がなかったこともあり、卒業後の進路を考える中で海外展開を目指す企業への就職も視野に入ると、インターンシップに参加することが自分自身にとって非常に良い経験になると確信しました。

### 活動を終えた感想は？

**A** 実際に現地に行くと、発展途上国であるマレーシアを肌で感じる事ができました。マレーシアの国教はイスラム教ということもあり、利子という考えが良しとされない社会において、マレーシアの金融はどのようにして利益を得ているのかを学ぶことができました。

現地での企画なども実際に計画し、英語によるプレゼンテーションも行いました。グループワークにおいては、自分の役割を考え、できることを全力で取り組む姿勢を身につけることができたと感じています。また、グループワークの中で時間配分や役割分担をしっかりと行ったことで、社会にとって効率化の必要性についても学ぶことができました。

### 今後の展望について教えてください

**A** 今回インターンシップで得た経験を生かし、今後は国際的に活躍するためにまずは語学力をさらに向上させていきたいと考えています。また、自主性を持ちながらもグループワークでは協調性も大切であると実感しました。時間を有意義に使うためにタイムスケジュールなど計画性を持つことや、人材に合わせた適正な役割分担を行うことに努めていきたいと考えています。



## 本学初!!トビタテ!留学JAPANに採用



YOSHIOKA TOMOMI  
**吉岡 知美さん**  
現代生活学部こども学科 4年

### 留学希望の後輩に向けてメッセージ

**A** 今まで私は2回の留学を経験しましたが、どちらも充実していて、とても楽しかったです！見たことがない食べ物を試したり、いろいろな国の人と友達になったり、人生の中で1番楽しい時間を過ごしました！毎日新しい発見があり、ワクワクすることがたくさんあるので、ぜひ一度挑戦してみてください！

### 参加を決めたきっかけは？

**A** 小学校教員になるにあたり、第二言語教育を学び、将来の指導に生かすため、そして海外での生活を通して人間としての幅を広げるために参加しました。2020年から始まる小学校での外国語指導に向けて、第二言語教育が盛んなオーストラリアを選びました。



### 活動を終えた感想は？

**A** 学校でのインターンは言葉の面や、慣れない環境であるということもあり、簡単ではありませんでした。しかし、子どもが好きだと言う気持ち、教えることの楽しさは変わることにはなかったです。日に日に子どもたちと交わす言葉も増え、充実した日々を過ごすことができました。この体験を通して、先生という仕事が好きで、やりがいのあるものだと改めて感じました。また海外の学校(小学校・中学校・高校)を見て、日本との違いをたくさん見つけることができ毎日勉強でした。

学校の生活だけではなく、ホームステイ先でも文化の違いがたくさんありました。それらを自分も体験することが楽しくて、できるならもっとたくさん見つけ、体験したかったなと思います。



### ドラゴンボートをはじめたきっかけは？

**A** アルバイト先でドラゴンボートの副代表をしている方から、私が熊本県の高校に野球推薦で進学し野球をしていたこともあり、誘われたのがきっかけです。チームは日本一の経験があり、海外でも試合をするなど、高いレベルでスポーツができ、なおかつ試合以外でもユーモア溢れる人がたくさんいるから始めてみたらという誘いを受けましたが、最初はマナー競技ということもあり、正直そんなに好きでなかったと考えていました。練習だけでも少し見ようという気持ちで参加したところ、全く漕ぐことができず、そこで私の負けず嫌いな性格が発覚されました。また、日本代表選手や社会人経験のある選手が多く在籍していることから、たくさんの刺激を受けることができる環境に魅力を感じてドラゴンボートを始めました。

### 実際に活動した感想は？

**A** はじめの頃はチームの選手に追いつけ追いつけの気持ちで一人倍努力しました。その甲斐もあって、チームの右先頭というポジションでチームを牽引していく選手にまで成長することができ、日本代表強化指定選手に選出されることができました。野球とは違い、何が正解なのかというものが少なく、自分自身で試行錯誤しながら答えを導き出していく点にドラゴンボートのほかとは違った面白さがあります。そのほかにも、社会の中でも会社を牽引していく立場にいる人も多く、とてもよい環境で過ごすことができました。日本選手権優勝や、スモール日本選手権優勝、海外ではコリアオープン200m優勝、アジア選手権総合5位、ハンガリーなどの格上相手に競り勝ち世界選手権9位という成績を残しました。



### 今後の展望について教えてください

**A** まずは消防官として精一杯務める中で、空いた時間を上手に利用して、ドラゴンボートと付き合っていくつもりです。近年、世界とのレベルの差は少しずつ縮まってきていますので、世界でも活躍できるチームや選手に成長し、日本でのドラゴンボートの発展に貢献していきたいです。アジアオリンピックなどの競技にも選ばれる可能性があるため、日本代表として、日の丸を背負って世界と戦っていけるように、実績を残すことが現在の目標です。

## ドラゴンボート日本代表指定強化選手に選出



世界で活躍できる選手をめざし、日本でのドラゴンボートの発展に貢献していきたいです

IMADE SOUICHI  
**今出 壮一さん**  
法学部法学科 4年

# 学習行動調査からみる帝塚山大学生

帝塚山大学では、入学から卒業までの大学生活4年間を通して、学生を対象とした各種アンケートを定期的に実施し、その結果を教育活動・学生支援の改善に生かすべくIR※に取り組んでいます。その取組のひとつとして、在学生を対象に、毎年度、前期・後期それぞれの履修登録期間中、学習経験や学習時間、大学の学びで身についた力・知識等を尋ねる「学習行動調査」を継続的に実施しています。本特集では、これらの結果を分析し、導き出された課題を整理することで、今後の教育内容・方法や学生支援策の改善に役立てていきたいと考えています。

## 学習行動調査実施概要

前期は2年生以上の在学生、後期は在学生全員を対象。webによる各期の授業科目の履修登録画面にアンケート設問が自動表示され、その場で入力。

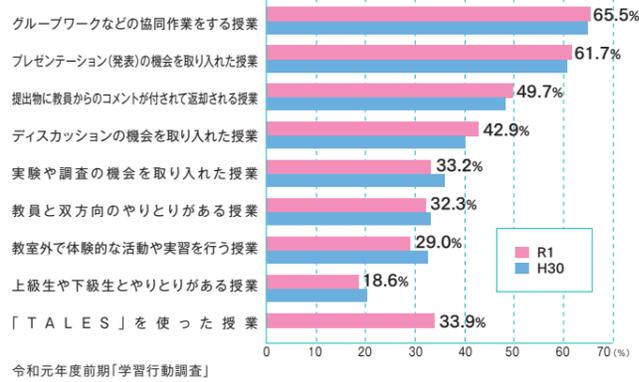
【前期】2,582名 98.2%  
(男子1,348名・女子1,234名)  
【後期】3,395名 94.0%  
(男子1,774名・女子1,621名)  
※回答率は5月1日時点での在籍数を分母としている。

※ IRとはInstitutional Research (インスティテューショナル・リサーチ)の略称で、大学の教育・研究などに関する情報の収集・分析を通して、大学の経営に関する意思決定や、教育の改善のための計画策定などの支援を行うことを指します。

## 大学で経験したことのある授業 多様なアクティブ・ラーニング形式の授業経験

「これまで経験したことのある授業形態」について尋ねたところ、最も多かったのは「グループワークなどの協同作業をする授業」で、

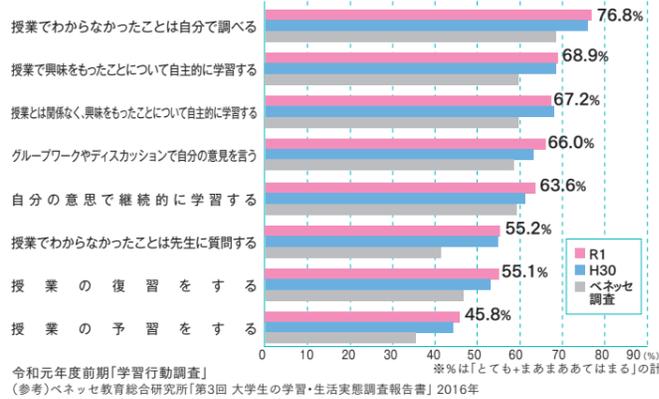
図1 これまで大学で経験したことのある授業 (複数選択可)



## 授業への取組姿勢・態度 自主的・積極的な高い学習意欲

「大学の授業に普段どのように取り組んでいるか」を尋ねたところ、いずれの学習行動においても「あてはまる」と回答した学生の割合

図2 授業への取組姿勢・態度 (複数選択可)



令和元年度前期「学習行動調査」 (参考)ベネッセ教育総合研究所「第3回 大学生の学習・生活実態調査報告書」2016年

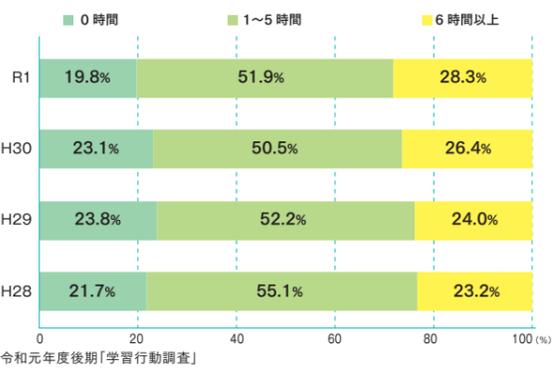
は全国平均より高く、本学には学習意欲の高い学生が多いことがわかります。また、昨年調査と比べても全体的に数値が高い傾向にあります。項目別に見ると、「授業でわからなかったことは自分で調べる」(76.8%)、「授業に興味をもったことについて自主的に学習する」(67.2%)、「授業とは関係なく興味をもったことについて自主的に学習する」(66.0%)、「グループワークやディスカッションで自分の意見を言う」(63.6%)、「自分の意思で継続的に学習する」(55.2%)、「授業でわからなかったことは先生に質問する」(55.1%)、「授業の復習をする」(45.8%)、「授業の予習をする」(45.8%)。

## 授業時間外の学習時間 改善を見せる授業時間「外」の学習時間

「授業開講期間中1週間あたりの授業時間外の学習時間」について、71.7%の学生が「5時間以下」と回答しました。全国的に学習時間が少ないことが言われています。一方で、経年的に見ると僅かずつではあるものの、「6時間以上」の学生の割合が増加傾向にあり、3割弱の学生が「6時間以上」勉強していることがわかります(図3)。

いとの結果も出ており、1、2年次に資格取得を奨励するなど、学生が学習習慣を身につけるよう働きかけています。このほか、自習施設として学生が自由に利用できるPC室の開放や、前述のeラーニングによる教育支援システム「TALES」の活用など、ソフト面、ハード面の両方から学生の主体的な学びをサポートする環境づくりに取り組んでいます。今後も学生の学習時間の確保、さらには単位制度の実質化(Key Word参照)に向け、継続的に取組を進めていきます。

図3 授業開講期間中の1週間あたりの授業時間外の学習時間 (ひとつ選択)

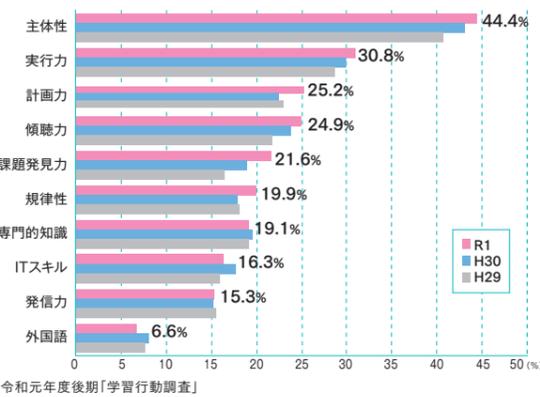


令和元年度後期「学習行動調査」

## これまで身についた力・知識 学生の成長(実感)に課題

「これまで身についたと思う力や知識」について質問したところ、上位3項目は、主体性(44.4%)、実行力(30.8%)、計画力(25.2%)で、昨年の上位3項目「主体性・実行力・傾聴力」から若干変動がありました。一方、下位3項目は、外国語(6.6%)、発信力(15.3%)、ITスキル(16.3%)で昨

図4 これまで身についたと思う「力」や「知識」 (複数選択可)

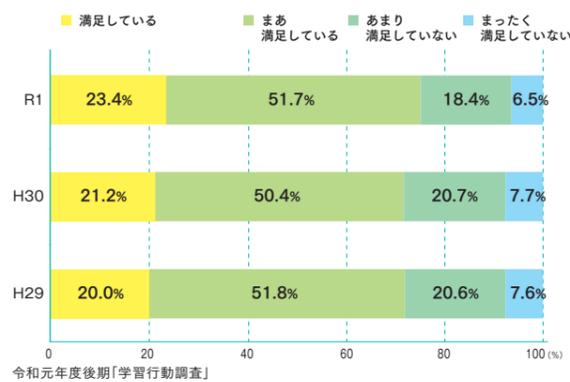


令和元年度後期「学習行動調査」

## 帝塚山大学への満足度 高まる帝塚山大学への満足度

「帝塚山大学に満足しているか」を尋ねたところ、「満足している」「まあ満足している」と回答した割合は合計75.1%で昨年よりやや増加し、帝塚山大学に対する学生の満足度の向上が見られました(図5)。

図5 帝塚山大学への満足度 (ひとつ選択)



令和元年度後期「学習行動調査」

経年的に調査を実施し、学生の意識や行動の変化を把握することで、本学の教育研究活動の適切性を点検・評価し、継続的な改善活動に結びつけていきたいと思います。今後も本学が標榜する「実学の帝塚山大学」を念頭に、学生が本学に入学して良かったと思えるような大学をめざしてまいります」とのコメントがありました。

紙面の都合上、全ての設問を掲載することはできませんでしたが、今回抽出されたテーマや課題について、今後、大学としてさらに検証を重ね、改善へと繋げていきたいと考えています。

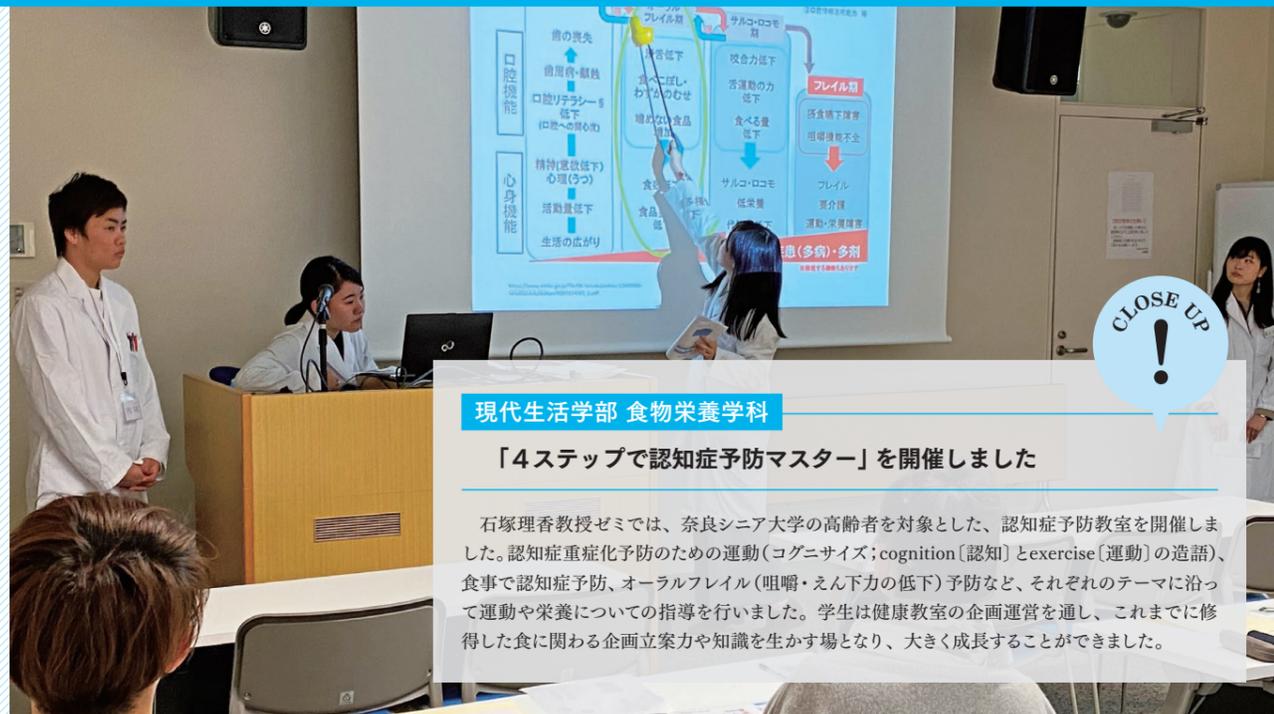
最後になりましたが、10月に開催しました保護者懇談会・就職説明会におきまして保護者アンケートを実施いたしました。ご協力いただきました多数の保護者の皆様に深く感謝いたします。ありがとうございました。お寄せいただきました貴重なご意見は、本学の教育および学生支援の充実・改善策のために活用させていただきます。

## Key Word 単位制度の実質化とは?

日本の大学教育は単位制度を基本としており、大学設置基準により1単位あたり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修を考慮して、各大学において定めるとされています。1単位あたり45時間の学修時間、事前の準備学修(予習)・授業・事後の展開学修(復習)を合計したものとなっています。こうした単位制度を実質化するために、学生は、単に大学の教室で授業を受けるだけでなく、教室外での自主的な学修(学習)を行うことが求められます。



アクティブ・ラーニングの一環としてプレゼンテーションを取り入れた授業を行っています。



**現代生活学部 食物栄養学科**

**「4ステップで認知症予防マスター」を開催しました**

石塚理香教授ゼミでは、奈良シニア大学の高齢者を対象とした、認知症予防教室を開催しました。認知症重症化予防のための運動(コグニサイズ; cognition〔認知〕とexercise〔運動〕の造語)、食事で認知症予防、オーラルフレイル(咀嚼・えん下力の低下)予防など、それぞれのテーマに沿って運動や栄養についての指導を行いました。学生は健康教室の企画運営を通し、これまでに修得した食に関わる企画立案力や知識を生かす場となり、大きく成長することができました。

**現代生活学部 居住空間デザイン学科**

**建設現場の見学に行きました**

大阪の中川企画建設株式会社との連携により3年生約10名が、実際の建設現場を見学しました。3年生は既に就職準備に入っており、その流れの中で、実際の施工の仕事を知ることが目的です。現場は13階建ての大規模な集合住宅で、それを統括する現場所長は本学科の卒業生で1級建築士の百中進さん(2008年度卒)でした。やりがいを感じる時や大変なことなど、学生達の多くの質問にも丁寧に答えていただき、貴重な体験となりました。



**心理学部 心理学科**

**心理学部1年次必修科目の心理学基礎演習IIでは、発達障害について学びました!**

発達障害のことについては、最近になって少しずつ知られるようになりましたが、まだまだ誤解や理解不足が多いのが現状です。そこで心理学部では、奈良県発達障害者支援センター「でいあ」より講師の先生をお招きし、「発達障害とは何か」についてレクチャーをしていただきました。あいまいな伝え方をすることはなく、具体的に伝えることの重要性など、さまざまなことを学びましたが、実は私たちの日常生活でも同じようなことがたくさんあり、発達障害が決して特別なことではないということを知り、受講した学生は、納得して耳を傾けていました。



**CAMPUS REPORT**

**文学部 日本文学学科**

**マスオグループ代表取締役社長・増尾朗氏による講演会を開催しました**

帝塚山学園同窓会との連携企画として、マスオグループ代表取締役社長の増尾朗氏をお招きし、「ならまち」とともに165年」というタイトルで講演会を開催しました。増尾氏からは、安政元年(1854年)創業の砂糖傳増尾商店の歴史を紐解きながら、「ならまち」の商家の暮らし、「お客様が何を求めているか」を第一に考えながら新たな商品開発に取り組んでいることなどをお話いただき、「大学での学びを通じて社会に貢献できる人材になってほしい」と本学学生への期待を述べてくださいました。講演後も学生の質問に個別に対応いただき、充実した講演会となりました。

**文学部 文化創造学科**

**梅乃宿酒造の「蔵開き」イベントに参加しました**

文化創造学科の専門科目「地域・まちづくり演習B」(担当:河川充勇教授)では、奈良の代表的な伝統産業の一つである清酒製造業の歴史と現状を学んでいます。学生たちは地域・まちづくりとのかかわりを意識しながら、伝統産業の課題と今後の可能性について調査・研究しており、受講生13名は本学卒業生が代表を務める梅乃宿酒造株式会社(葛城市)の「蔵開き」イベント(蔵見学+地元の飲食店を集めての食フェス)に参加してフィールドワークを行いました。



**教育学部 こども教育学科**

**小学校教育実習で研究授業を行いました**

3年生の多くは、9月に小学校や幼稚園において教育実習を行いました。小学校で教育実習を行った学生は、それぞれの学校で研究授業を行うため、指導案を作り、担任の先生にご指導いただき、教材やワークシートを作成したり、動画を用意したりと準備して授業に臨みました。一生懸命に教えようと頑張る実習生とそれに応えようとする子どもたちの姿が印象に残りました。実習後は「子どもたちの笑顔が忘れられない。充実した毎日だった。絶対に教師になる!」と決意を新たに勉強を続けています。



**[ 帝塚山大学大学院より ]**

**心理科学研究科 心理科学専攻**

**大学院生が関西心理学会第131回大会で口頭発表!**

関西心理学会第131回大会が大阪教育大学天王寺キャンパスで開催され、本学大学院心理科学研究科の大学院生が口頭発表を行いました。研究テーマは、「対人ストレス認知と自己・他者受容」「ストレスと共感的コミュニケーション」「被拒絶感と社会的スキル」「反芻・省察による睡眠状態」「筆記による自己開示」と多岐にわたっており、日頃、積み重ねてきた研究成果を発表することができました。大学院生たちは、緊張しながらも立派に発表し、フロアからの厳しい質疑にも堂々と答えていました。さらに、今回は学部学生も意欲的に参加し、研究への思いを強く感じたようです。



**人文科学研究科 日本伝統文化専攻**

**大学院生が法隆寺で留学生向けのガイドをしました**

奈良県内の大学・短期大学が参加する「奈良地域留学生交流推進会議」で、本学大学院人文科学研究科博士前期課程の富島健司さん(考古学ゼミ)が法隆寺のガイドを務めました。富島さんは斑鳩地域をフィールドに研究を進めており、自身の研究とも関連させながら、法隆寺の見どころや大陸からの影響などを説明しました。留学生の大部分は法隆寺を訪れるのが初めてだったので、富島さんの解説を興味深く聞いていました。大学院生たちは日ごろの研究活動を通じて得た知見を広く社会に還元していくことにも力を入れています。



**経済経営学部**

**身近な事例でマーケティングを学びます**

特殊講義(ケーススタディ)は、事例を中心にマーケティングを学ぶ授業です。毎回テーマに沿った事例を用いており、ネスレ日本のキットカット、ファーストリテイリング(ユニクロ)のヒートテックなど学生にとって身近な事例を通してマーケティングを学びます。ディスカッションの時間を多く設けており、現場で直面する課題や解決に至る経緯などを話し合うことで、マーケティングに関する実践的な知識を身につけることができます。



**法学部 法学科**

**金融実務講座を実施しました**

金融庁による金融実務講座「金融リテラシーとライフデザイン」を実施しました。法学部での学びが金融の各業界でどのように役立つのかを知り、さらなる法学の学びへとつなげることを目的とする講座です。ライフプランニングから資産形成、金融トラブルへの対応に至るまで詳しく説明していただき、今後の人生にとっても役立つ内容でした。金融実務講座ではこのほか奈良県銀行協会による銀行編、日本証券業協会による証券編、日本銀行大阪支店の現地見学会も行われました。



## ソフトテニス

大学生活に彩をイベントたくさんソフトテニス部

ソフトテニス部は、年2回LUCENTカップや青鳥杯などの大会に出場しています。また、青鳥杯は私たちが主催していて、部内の団結力を高めています!!年に数回イベントを行っており、合宿は勿論、ハロウィンパーティーや文化祭の模擬店に参加するなど楽しく活動しています。



奈良・東生駒キャンパス

## アーチェリー

部員、みんなで和気藹々と活動しています!!

アーチェリー部は、毎週水曜日15:00-17:00、土曜日10:00-13:00の週2回を主な練習として活動しています。さまざまな大学と交流を持ち、合同練習や合同合宿を定期的に行い、互いに切磋琢磨しています。もちろん部員同士の仲もとてもよく、いつも和気藹々としていて、部活に参加するのが楽しくなる部活であることを自負しています。一つの目標である大きな大会で好成績を残すことは未だ叶っていませんが、これからもさまざまな経験を積み重ね、頑張っていきたいと考えています。



奈良・東生駒キャンパス



# CLUB ACTIVITIES

クラブ・サークル活動

クラブ・サークルを通して、学内外で活躍する帝大生。学生たちの元気な姿をお届けします。

## 女子バスケットボール

5部夏季リーグ戦3勝3敗

部員は、3年~1年生合計9人で、週2回帝塚山小学校の体育館を借りて練習を行っています。毎年夏に行われる「関西女子バスケットリーグ戦」に参加し、練習の成果を発揮しています。また、月に1~2回「食トレ」を行い、練習後に自分達で米を炊きおにぎりを握ってエネルギー補給を行います。みんなでおにぎりを食べるによりコミュニケーションをとる大切な時間となっています。少人数ではありますが、だからこそお互いのことを良く理解することができ、仲の良いチームを築いていくことができていると感じています。



奈良・学園前キャンパス

## 児童福祉ボランティア

どれみ

絵本の読み聞かせ

児童福祉ボランティアどれみは、あかね祭で絵本の読み聞かせをしました。読み聞かせをする機会はあまり多くないので緊張しましたがとても貴重な体験となりました。また読み聞かせ以外にもダンボールを使ったゲームやバルーンアートをプレゼントしました。当日の「どれみ」ブースはたくさんの子供たちの笑顔で溢れていました。今年度は、いろんな方々から声掛けがあり、様々なイベントに参加する予定です。読み聞かせの経験も生かし、各イベントを成功させたいと思います。



奈良・学園前キャンパス

## 女子バレーボール

1部秋季リーグ戦において6勝4敗で4位

全日本インカレで惜しくもベスト8を逃す

女子バレーボール部は、現在関西大学バレーボール連盟1部に所属しています。今年度春季リーグ戦では過去最高の4位という結果を残し、今回秋季リーグ戦は4年生にとって最後のリーグ戦になるため、優勝をかざりたかったのですが、春と同じく4位という結果に終わりました。11月9日・10日に開催された関西インカレでは1回戦、2回戦と順調に勝ち進むことができましたが、決勝トーナメントで千里金蘭大学に負けてしまい、2日目に残れないというとても悔しい結果に終わりました。11月26日から始まった全日本インカレでは目標としていたベスト8をかけて日本体育大学と戦いましたが、結果は、27-29、27-29、22-25と善戦及ばず、ストレート負けを喫してしまいました。来年は必ずベスト8以上になれるようにチーム全員で頑張ります。これからも女子バレーボール部へのご声援をお願いします。



奈良・東生駒キャンパス

## 今回の PICK UP!

## レスリング

8年ぶり1部リーグ復帰

個人戦でのメダルラッシュ

フリースタイル74kg1位 金メダル喜多佳佑選手(法学部3年)。フリースタイル79kg・グレコローマン79kg3位 銅メダル杉原政和選手(経済学部4年)。グレコローマン55kg3位 銅メダル 松岡大誠選手(経済経営学部1年)。喜多選手、松岡選手に加え、先の大会で出場権を得た中村選手の計3名が、年末に開催される「天皇杯・全日本選手権大会」の出場権を得ました。



最近の練習では、西日本学生選手権での課題を克服するために細かい状況を想定した練習メニューの追加、そして筋力アップのための補強トレーニングも追加しています。その成果もあり、12月に開催された「西日本学生秋季リーグ戦」で優勝し、8年ぶり1部リーグ復帰を果たしました。

奈良・東生駒キャンパス



1位に輝いた喜多選手

## ボランティアサークル

ひまわり

ボランティアのための研修などを行っています!!

ボランティアサークルひまわりは、ボランティアを行うための研修やボランティア先の紹介などを行っています。研修ではアドベンチャーカウンスリング研修やコミュニケーションスキルアップ研修などサークルのメンバーで意見を出しながらさまざまな研修を行い、ボランティア活動に参加しやすくなるようにしています。



奈良・学園前キャンパス

## 学園会

イベント企画を積極的に!

学園会は、一年を通して、七夕やハロウィンやクリスマス会など様々な季節のイベントを企画しています。ハロウィンでは学内を装飾し、当日はお菓子の設置配付を行いました。今年初の試みとして4月に軽食を準備して新入生を対象にサークル紹介を実施し、多数の参加者がありました。また、前期定期試験前に、流しそうめんを行い気分を盛り上げる企画を行い、大学生活を盛り上げる取組を行っています。



奈良・学園前キャンパス

## 演劇(劇団透り雨)

雨降って地固まる

演劇部は、4月に新入生歓迎会、夏休み期間中に夏公演、そして一番メインとなる虹色祭での公演があります。また、卒業生がいれば卒業公演も行います。現在は15人で活動しており、その中のほとんどが演劇未経験者です。演劇と言えば役者がクローズアップされがちですが、役者が演じるための物語を書く脚本家、劇の舵取り役の演出家、役者を照らす照明、物語に臨場感を与える音響など、裏方の仕事も大切な役割であり、役者と共に舞台を作りあげています。皆様に楽しんでもらえるような演劇を届けるため、私たちは日々練習を重ねています。演劇に興味のある方やそうでない方もぜひ公演を観に来てください。



奈良・東生駒キャンパス

## 華道

花と慣れ親しみ、精神を向上させる

華道部は、毎月第2・第4金曜日のお昼休みに食堂の向かいにあるクラブハウスで活動しています。「花と慣れ親しみ、精神を向上させる」をモットーにお花の大切さを実感しながらお花を生けています。7月には大和未生流の夏期講習に参加しました。虹色祭では、フラワーアレンジメントの体験を行い、多くの方に参加していただきました。お花を生ける際には、お花の名前を教えていただけるので、お花の知識も増えます。華道部の生け花は大学の色々な場所に配置していますので、皆さんもぜひ鑑賞してください。



奈良・東生駒キャンパス

## New 新規団体



eスポーツ研究会

サークル入部者募集!!



enjoy スポーツ



気になるものがあればレッツチャレンジ!

地域連携  
大学連携  
最新の取り組み



ベビーガーデンで「食べ物カルタ」を実施

現代生活学部食物栄養学科の食育ボランティアサークル「ヘルスチーム菜良」は近鉄百貨店奈良店のキッズスペース「ベビーガーデン」において、子どもたちとともに楽しく野菜や果物について学ぶ「食べ物カルタ」を実施しました。



●食物栄養学科

「ヘルスチーム菜良」は、奈良県内の4つの管理栄養士養成施設(帝塚山大学、畿央大学、近畿大学、奈良女子大学)の管理栄養士を目指す学生たちが活動する食育ボランティアサークルです。これまでも4大学協働の活動として県内の様々な自治体、企業、団体等と連携した活動を行うほか、大学ごとに特色を生かして学内外でさまざまな活動し、2016年には農林水産大臣から食育推進ボランティア表彰を受賞しました。

近鉄百貨店奈良店では、今年度ベビー用品売り場にキッズスペース「ベビーガーデン」を設置しました。「ベビーガーデン」では、奈良市との連携のもと奈良市食育ネットに参加する様々な団体により交代で食育に関するイベントが行われています。帝塚山大学へルスターも、奈良市食育ネットの参加団体の1つとしてイベント協力の依頼があり、今回の実施となりました。

対象が未就学児ということで、小さな子どもでも安全に楽しんでもらえるよう、カルタの札は学生たちがフェルトで野菜や果物の形のものを作成しました。読み札も色や形などそれぞれ野菜や果物の特徴を一言で表した簡単なフレーズをみんなで作りました。



参加された子どもたちはそれぞれの野菜や果物の特徴が読み上げられると、フェルトで作られた野菜や果物を素早くタッチしていました。一番たくさんカルタを取ることができた子どもには、フェルトで学生が手作りしたメダルをプレゼント。残念ながら負けしまった子どもにも野菜のカードをプレゼントしました。

カルタの終了後は、カルタに出てきた野菜や果物の実物が登場。子どもたちは野菜や果物に実際に触れて色や形、においなどを確かめ、食べ物に親しんでもらうことができました。

学生たちにとっても、子どもたちと触れ合いながら子どもたちへの接し方について学ぶとともに、これまで学内の講義や実習で学んできた知識や技術を生かして実際に食育を実践する場となりました。

食物栄養学科では、これらのサークル活動やゼミ活動を通して、地域と連携した活動を実施し、学内だけでは経験できない「実学」教育の充実を力を入れています。

オランダ屋高田にてマーケティングプロジェクトを実施

●アドバンスプログラム

本学アドバンス・プログラム所属の経営学部学生は、今年4月より奈良市に本社を置くフジエダ珈琲(株)と連携して、オランダ屋高田店の18時以降の女性の来客数を増やすことを目的としたマーケティングプロジェクトを行っています。以前にも、アドバンス・プログラムとフジエダ珈琲(株)は連携し、大学構内で採れる栗を実際に使用した「帝塚山大学産 栗のパウンドケーキ」を開発し、奈良市ふるさと納税返礼品に採択され好評を得ました。

今回のプロジェクトでは、学生は最初にオランダ屋高田店の競合他社を自ら設定し、フィールドの参与観察や定量調査などを企画し、実際にマーケティング調査を行いました。次に、オランダ屋高田店の現在の利用客にアンケートを実施し、これらの調査結果を基に議論を重ねた結果、ターゲットをグループで来店する女性に絞り、チョコレートフェアの企画を提案しました。実施にあたり、マーケティング理論の4Pに基づいた①商品(見た目、味、演出)②価格③提供の仕方④プロモーション(店内告知、SNS発信)と、あわせて提供期間も検討しました。

10月にはオランダ屋高田にて試食会を実施し、学生たちはチョコバナナパスタや石焼チョコパスタ(冷製)など、斬新なアイデアの商品開発に関わりました。さらに、学生毎に再度調査した結果をプレゼン資料にまとめ、オランダ屋の副社長や高田店長へ提案し議論を深めました。商品は12月初旬からオランダ屋高田店で提供される予定です。副社長からの要望を受け、チョコレートフェアのプロモーションにPRポスターも作成しました。学生らのポスターはすべて店舗の入り口に展示されます。

目標は、12月の売上が昨年度を大きく上回ることであり、チョコレートフェア開催期間中である1月に現地を訪れ、実施する戦略を検証することにしています。

マーケティングは理論に基づいて実践して、その結果がすぐ見えるので面白いし、社会に出てどんな仕事に就いても必ず役立つ学びです。今回は、カフェという身近なケースで、企業が本気で取り組む戦略に多くの学生の意見を取り入れてもらい、学生たちはとても良い「実学」教育を受けることができました。



多摩大学との大学連携による各種取り組み紹介



2019年度「多摩大学アクティブ・ラーニング発表祭」に参加しました



12月14日(土)、本学と「学術交流に関する包括協定」を締結している多摩大学(東京都多摩市)において2019年度「多摩大学アクティブ・ラーニング発表祭」が開催され、本学の経営学部経営学科、現代生活学部居住空間デザイン学科から2チーム(総勢3名)の学生が参加し、発表を行いました。今年で11回目を迎える発表祭は、多摩大学を中心に本学からの招待発表2チームを含む41組の発表チームが参加しました。

本学最初の発表は、経営学部経営学科4年の谷川 紅葉さんが「いまこいパルスシステム開発プロジェクト」を発表しました。続いて、現代生活学部居住空間デザイン学科4年の能島 優仁さん、3年の祐岡 亜弥さんが「旧西豊小学校校舎再生プロジェクト」を発表しました。いずれの発表も地域連携、地域貢献に関して学生たちが取り組んだ内容でした。

今回は多摩大学、帝塚山大学に加え、東京経済大学から小木ゼミと多摩大学併設の多摩大学目黒高等学校、多摩大学附属聖ヶ丘高等学校からの参加があり、バラエティに富んだ内容となりました。質疑応答も活発に行われ、互いの内容に刺激を受け、良い相乗効果が期待できる発表祭となりました。2020年2月22日(土)には本学主催の「実践学生発表祭」を開催し、多摩大学から2チームを招待し、活発な交流を行います。



本学発表2チームの指導教員と学生



日置先生(地域連携推進委員)による講評

おちやせんでマーケティング調査を実施

●アドバンスプログラム



本学アドバンス・プログラム所属の経営学部学生が、生駒市「おちやせんで」で、来店者にマーケティング調査を行いました。

「おちやせんで」は、近鉄生駒駅前ベルテラス内に店舗を構え、生駒市の特産品や、生駒市で活躍する企業の製品などを扱う生駒商工会議所直営のアンテナショップです。

現在、「おちやせんで」では、生駒商工会議所が「昨年度から実施している「起業家向けチャレンジ商品事業」に参加する8事業者の新製品がテスト販売されています。同事業に参加する事業者へのアドバイスや製品のマーケティング調査を、本学の菅万希子経済経営学部教授が受託研究として請け負い、学生は日ごろの学びの成果を実際のマーケティング活動で発揮することとなりました。

小紫雅史生駒市長も学生らの活動を激励に来店されました。

学生は、「おちやせんで」を訪れた人に各新商品の説明を行ったうえでアンケート調査を実施し、この度第1期の販売品に対するマーケティング活動を終えました。この事業にかかわる中で、学生は「おちやせんで」自体のPR方法や売上向上につながる具体的な施策を生駒商工会議所に積極的に提案し、PRツールも提案しています。11月には、第2期のテスト販売を実施し、学生は再び調査を実施するとともに、菅教授が手がける分析報告の基礎となるデータの整理を担当しました。

菅教授は、「実際のマーケティング分析のプロセスに学生を主体的にかかわらせたい」、「実地で取り組むことにより、学生は自ら行動しアイデアを出せる。結果が出ることで、大学の学びを自分のものとし、将来社会で活躍する力にすることができると本取り組みの狙いを語っています。教員の研究成果と学生の学びが地域に貢献するという「実学」の帝塚山大学」ならではの事例です。



## 後援会(在校生保護者)の皆様へ

### 保護者教育懇談会・就職説明会を開催しました

10月20日(日)、奈良・東生駒および奈良・学園前の両キャンパスにおいて、帝塚山大学保護者教育懇談会・就職説明会を開催しました。奈良・東生駒キャンパスでは文学部・経済経営学部・経済学部・経営学部・法学部、奈良・学園前キャンパスでは、心理学部・現代生活学部・教育学部に在籍する学生の保護者を対象に開催し、昨年度を大きく上回る約275家庭から約379名の保護者の方々が参加されました。

昨年度に引き続き、午前保護者教育懇談会、午後からキャリアセンター主催の保護者対象就職説明会を実施することで、教育内容から就職活動まで、保護者の方々が気になるポイントを一日で網羅できる企画としました。

初めに、学部・学科別説明会及び情報交換会が各会場に分かれて実施され、学生たちが日頃の成果を発表するなど学部の特徴に応じた企画が催されました。その後は立食形式の懇談会が学科ごとで行われ、参加された保護者の方々と学科の教員が軽食を取りながら談笑する風景が随所で見られました。

午後からは、初めに全体会が行われ、奈良・学園前キャンパスでは蓮花学長が挨拶し、「『教える』教員と『育つ』学生との共同作業を通じて、未来に役立つ学びを展開していきたい」とのメッセージが伝えられました。続く就職説明会では、株式会社マイナビ副編集長の藤原武史氏(東生駒)、丹下晴恵氏(学園前)による「近年の就職状況と保護者の支援」と題した講演の後、内定を獲得した4年生によるパネルディスカッションが行われました。内定者からは、内定先に決定した理由や、保護者から元気をもらった一言など、就職活動を振り返っての率直な意見が出され、盛況のうちに閉会となりました。

説明会の終了後は、保護者の方々と個別相談にキャリアセンターの職員が応じました。本学は今後も「学生への教育・支援がきめ細かい」大学をめざし、学生一人ひとりに寄り添った教育活動を展開してまいります。



蓮花学長からの挨拶



アドバンス学生による成果発表

### 保護者の皆様から以下のようなご意見・ご感想をいただきました(参加者アンケートより)

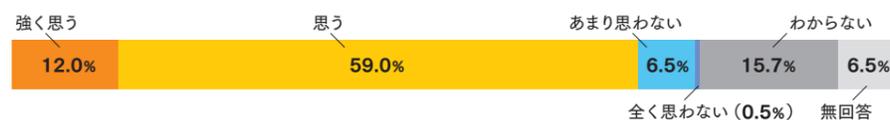
- 大学生になると、学校に行く機会が少なく学校内の様子や子供のことが分かりにくいですが、保護者会を通して学校内や子供のことが理解できました。(学園前1年生)
- アドバイザーの先生方や学生の方と話ができて、疑問に思っていることや改善すべきことを聞くことができて良かったです。(東生駒1年生)
- 学科ごとになっていたんで、同じ学科の保護者と話す機会にもなってきた。(学園前1年生)
- 内定学生のパネルディスカッションは、今の就活の実情や経験を聞くことが出来てよかったです。(学園前3年生)
- 現在の就活スケジュール等を知ることが出来て、良かったです。(学園前1年生)
- 早い時期から何が大切で、どう動くべきか明確にわかりました。キャリアセンターの方に手厚くご指導いただけるのは有難いです。(東生駒1年生)

### 現時点において、保護者の方は帝塚山大学に対して満足しているか



保護者の9割が帝塚山大学に対して「満足」している。学年では4年生の保護者の「満足している」と回答した割合が最も高い。

### 身近に四年制大学への進学希望者がいる場合、帝塚山大学を勧めたいと思うか



満足度は低いものの、7割超の保護者が「勧めたい」と回答。

### 令和元年度帝塚山大学卒業式・帝塚山大学大学院修了式を挙行します

令和2年3月25日(水) 13時00分開式(入場受付: 12時~12時30分)

【会場】グランキューブ大阪(大阪国際会議場)

### キャリアセンターより

就職活動は、学生が大学卒業後の実社会でどのような人生を歩んでいくかを考えたり、学生が本当の自立に向けて成長する良い機会でもあります。就職活動の主役はもちろん学生本人ですが、保護者・ご家族は心の支えとなる重要な存在です。キャリアセンターでは学生が自らの意思で進路選択・就職決定ができるよう多種多様なサポートプログラムを実施するとともに学生一人ひとりの希望やニーズを確認し、就職活動の進捗状況に合わせてきめ細かい支援を行っています。

### 【保護者教育懇談会・就職説明会を開催しました】

10月20日、奈良・東生駒キャンパスおよび奈良・学園前キャンパスにおいて保護者の方々に教育懇談会を開催、当日午後からの第二部では就職説明会を開催しました。

奈良・東生駒キャンパスでは、株式会社マイナビ 副編集長の藤原武史氏から、奈良・学園前キャンパスでは、丹下晴恵氏から「近年の就職動向と保護者の支援」と題して講演していただきました。その後、本年度就職が決まった学生によるパネルディスカッションを開催し、パネラー学生に対して、保護者から多数の質問が寄せられました。就職活動での印象に残るエピソードや保護者からの支援で嬉しかったこと、困ったことなどを自身の経験に基づき、学生の生の声が聴ける有意義な時間を過ごすことができました。当日参加した保護者からは、「家族の支援のポイントがよくわかりました」、「キャリアセンターで個別支援をしていただいていることはとても心強い」、「パネラー学生の皆さんは学生とは思えないほどしっかりされていて感心した」といった感想が聞かれました。当日は多数ご参加いただき、盛況のうちに終了しました。ご参加いただいた保護者の皆様、誠にありがとうございました。



就職講演(マイナビ藤原氏)



内定学生によるパネルディスカッション

### ■株式会社リクルートキャリアに対する対応について

株式会社リクルートキャリアによる『内定辞退率情報販売問題』について、帝塚山大学としても会社として個人情報や漏洩したこと、また、学生に不利益を与えることを予測しながら販売した会社の姿勢を強く受け止め、当分の間、リクナビサービスを推奨することを控えることといたしました。今後は、全国私立大学就職指導研究会、関西学生就職指導研究会の方針を参考にしながら、適宜対応していくことといたします。なお、株式会社リクルートキャリアのサービスを利用禁止にするわけではありませんので、個人が利用することは問題ありません。

### 【学内個別企業説明会および選考会を開催しています】

奈良・東生駒キャンパスにおいて毎週水曜日に単独企業による説明会・選考会を開催しています。この説明会・選考会は4月後半から継続して開催しているもので、大学の教室で、会社説明会と1次選考会に併せて参加できるというところにメリットがあります。この説明会・選考会は帝塚山大学の学生を採用することを目的に年間を通じて様々な業界から多数の企業に参加いただいております。実施案内はキャリアセンター掲示等でお知らせしています。



### 【企業5社による学内インターンシップを開催しました】

9月18日に東生駒キャンパスにおいて、昨年に引き続き1~3年生を対象に業界研究・会社研究を目的とした『学内インターンシップ』を開催しました。大学との懇意企業5社のご協力のもと、座学とグループワークを中心に学内で「就業体験」を実施しました。当日は100名を超える学生が参加し、短い時間ではありましたが、企業担当者によるレクチャーによる実際の仕事を体感し、「仕事理解」を深める1日となりました。



### 【帝塚山大学インターンシップ報告会を開催しました】

10月19日に令和元年度帝塚山大学インターンシップ制度の体験報告会が行われました。当日は、インターンシップに参加した学生から6名の代表学生が就業体験を通して学んだこと、反省したこと、学生と違って社会人の厳しさ、責任の重さなどについて、それぞれの感想を交えて発表を行いました。発表後には最優秀発表者が選出され、飛世副学長(キャリア担当)から認定証が授与されました。その後、当日ご参加いただいた5社の企業担当者様からインターンシップを通しての感想と発表への講評を頂戴し、就職活動に生かして欲しいとの励ましの言葉をいただきました。



### 【就職力・自己開発ゼミナールNext(4年生対象)を開講しました】

例年、3年生を対象に開講している本学独自の就職支援講座の「就職力・自己開発ゼミナール」ですが、このたび新たに4年生の就職決定者を対象とした就職応援企画としてプログラムを新設し、10月から開催しています。プログラムの概要は①キャリアデザイン ②自己理解 ③チームワーク ④考える力 ⑤ケースワークの5本柱で構成、卒業後、ビジネス社会における新入社員としての『はじめの第一歩』を身につけてもらうことを目的としています。



### 【「就職活動のためのスーツ着こなし講座」を開催しました】

文学部の就職ガイダンスにおいて、「就職活動のためのスーツ着こなし講座」が開催されました。講師に洋服の青山(株式会社青山商事)生駒店店長の田中 庸三氏と女性スタッフの方をお招きし、男女別に就職活動でのスーツを選ぶポイント、着こなし方、シャツの選び方、ネクタイの選定と結び方について、好感が持てる良い例について実際のスーツ、シャツ、ネクタイを用いてわかりやすく解説していただきました。参加した学生はスーツなどの選び方や着こなし方で、大きく差がつくことに驚いていました。



### 【資格取得や各種試験対策をバックアップしています】

学生時代に資格を取得することは、就職活動のみならず、さらにその先の社会人生活においても大きく役立ちます。そのため帝塚山大学ではキャリアセンターの資格コーナーでは学生のキャリア形成や就職活動支援のためにさまざまな講座を開講しています。中でもよりハイレベルな資格取得への挑戦を支援する特別資格サポート制度「A制度」や5,000円の自己負担で年間最大5講座まで受講できる「B制度」により、負担費用の軽減を図っています。



奈良晒は奈良を中心に生産された麻織物で、鎌倉時代中期に法華寺の尼衆や西大寺近辺の婦女子が織り出したのが始まりと伝えられています。その後、江戸時代に入ると南都随一の産業として最盛期を向かえ、生産地域は大和はもとより山城、伊賀に広がり、当時の作業の様子については「大和名所図会」や「南都さらし乃記」などの資料から知ることができます。本屏風は、縦89cm、横284cmを測り、制作年代は江戸時代後半で、作風から浮世絵師の歌川国芳、あるいは

歌川国貞系の絵師によるものと考えられ、その場面構成と的確な人物描写から相当な技量を持った人物が描いたことがうかがえます。本屏風は二扇ごとに場面を変えて、布晒し、砧打ちの場面等を描き、描写は丁寧かつ精緻で、保存状態も大変良好です。この屏風が大和での奈良晒の場面かどうかは特定はできませんが、変化に富んだ風景とともに作業に携わる人々の姿を生きて描いています。



## 奈良学への招待 源氏物語・初瀬の御利益

帝塚山大学文学部 教授 清水 婦久子

源氏物語で唯一、奈良を舞台とした所は初瀬です。光源氏が愛した夕顔の娘玉鬘は行方知れずでし

たが、この地で夕顔の女房右近と出会い源氏に引き取られた後、藤原氏長者である父親と再会します。

家ゆかりの人々で、長谷寺ゆえに藤原の姫君である玉鬘の願いが叶ったのです。また古歌では「初瀬川古川野辺に二本ある杉年をへてまたもあひ見む二本ある杉」「祈りつつ頼みぞわたる初瀬川うれしき瀬にも流れあふとや」と詠まれ、瀬で合流する初瀬川と、根元から二本に別れた二本杉により、初瀬が「再会」に靈驗ある地とされてい



江戸時代(1650年刊)の木版本「絵入源氏物語」玉鬘巻(長谷寺)の挿絵

ました。金春禪竹の謡曲「玉鬘」でも二本杉の前で玉鬘と右近が出会います。玉鬘の再会の舞台が初瀬であったことは、その風土、歴史、信仰と深く関わっていたのです。

## 学芸員として市内の歴史や文化財を調査

### 現在の仕事

現在は学芸員として市内の歴史や文化財に関する調査を行っています。昨年までの3年間は資料館に勤め、石鍋遺跡の解説作成や民具の企画展示、社会科見学の解説など、幅広い分野を勉強しながら担当しました。特に力を入れて取り組んでいるのは、神社の狛犬調査です。市民向けの講演会を行う際、民俗学と美術史双方の視点で取り上げたいと思ったのがきっかけです。地方や石工職人によって形態が異なるため、現在も休日に時間があれば神社に足を運んでいます。

調査の他に、イベントのチラシやポスターを制作することもあります。もともと作ることが好きなので、過去のイベント情報を基に、どんな構図が一目で分かりやすいか、見る人にどんな気持ちにさせたいかを考えながら制作しています。

### 今後の目標

今年4月から市役所に入庁することになり、現在は市の仕事を1つずつ勉強しています。新しい事を毎日覚えるのに精一杯ですが、今後の目標として取り組みたいことは2つあります。1つ目は自分が志望する文化振興課で、

### 就職活動に臨む 先輩たちへのメッセージ

地元の文化財や美術品の調査等を行うこと。2つ目は市立美術館で企画展示の仕事に携わることです。以前文化財専門官や学芸員の先輩方から、地元文化財について教えていただく機会がありました。現在市の事業として行っていることや各専門分野についての話を聞くことができ、私も今までの知識が生かせる部署で貢献したいという思いが強くなりました。即戦力となるよう、今後も様々なことに挑戦したいと思っています。

ぜひ大学生という身分を大いに活用し、様々な場所へ足を運んでたくさんの人と出会ってください。私は美術史が好きだったため、授業以外でも博物館や神社仏閣に足を運んで、見聞を広めました。勉強以外にも友達とイベントのボランティアに参加したり、新生合宿の引率の手伝いをしたりと、大学生だからできることにことごとく挑戦しました。

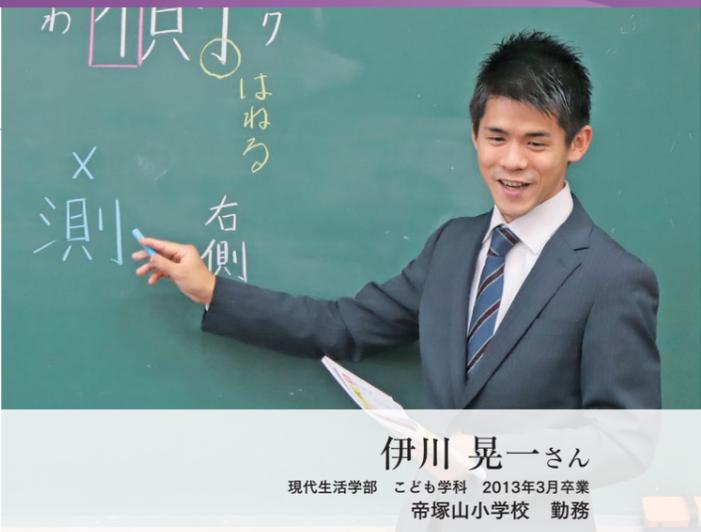
大学生の頃は将来関係ないと思いつつやっていたことでも、社会人になってから必ずどこかで役に立つ時があります。私の場合は考古学や民俗学など他分野も授業で学んだおかげで、以前動いていた資料館で役に立ちました。就職活動は、自分自身と向き合うことのできる良い機会だと思います。何をしたいのか、どんな分野に興味があるのかを考えて悩んで、目標に向かってどんどん挑戦してください！



中村 綾乃さん  
人文学部 日本文化学科 2016年3月卒業  
長崎県諫早市役所 勤務

## 卒業生紹介

### 小学校教員として子ども達と共に日々成長中



伊川 晃一さん  
現代生活学部 こども学科 2013年3月卒業  
帝塚山小学校 勤務

### 現在の仕事

担任業務として国語、算数、社会、道徳、体育の授業を教えています。子どもが困っていたら一緒に解決策を考えることも大切な仕事です。子ども達がいけないときは授業準備、宿題作成と丸つけ、保護者対応をしています。担任業務以外では、防災訓練や校内安全などの、学校の安全に関する仕事などを行っています。また、バス部とロボット教室のコーチでもあり、子ども達と野菜を栽培する会の担当でもあるので、その事前準備や書類作成等と仕事は多岐にわたります。

ですが、毎日子ども達の笑顔を見ると忙しさも疲れも感じません。毎日「今日は何が起こるだろう」「何を子ども達に伝えよう」とわくわくしながら仕事をしています。

### 今後の目標

子ども達は毎日成長しています。先生も子ども達にたくさんのことを伝えられるように、日々成長していく必要があります。子ども達に教える内容の知識はも

### 就職活動に臨む 先輩たちへのメッセージ

AIに仕事を奪われていく社会で、人間はどのように働かなくてはいいか。与えられたことに、ただ受け身な姿勢で仕事をこなすだけではロボットと同じです。まず大切なことは「一人のために自分は何をしたいのか」を考えることだと思います。人を幸せにすることが仕事です。「何をしたいのか」という目的が明確にあること、それを達成するための手段を考えることにつながります。目的を達成するためには様々な手段があります。常に社会に目を向け、想像力を働かせて新しい手段を提案できるような人が、これからの社会で活躍するのだと思います。それはAIには出来ないことだからです。

最後に、小学校で子ども達に言い続けていることがあります。それは「失敗してもいい。大切なことは、その時にどのように成長するか」ということです。失敗の数だけ、人は成長します。成長する自分を信じて、日々努力を重ねることが社会人にとって一番必要な力だと思います。頑張ってください！

## 本学教員の執筆図書紹介 Teachers' Publications

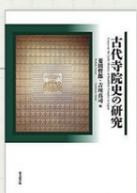
松下 慎一  
(法学部 准教授) 分担執筆  
ロードマップ民法1  
総則 第2版  
一学舎 ¥2,800+税



福本 葵  
(法学部 教授) 分担執筆  
図説 アメリカの証券市場  
(2019年版)  
日本証券経済研究所  
¥2,300+税



清水 昭博  
(文学部 教授) 分担執筆  
古代寺院史の研究  
思文閣出版  
¥13,000+税



清水 益治  
(教育学部 教授) 分担執筆  
保育者のための自己評価チェックリスト  
保育者の専門性の向上と園内研修の充実のために 改訂版  
萌文書林 ¥800+税



平山 篤子  
(名誉教授) 分担執筆  
1571年 銀の大流通と国家統合  
(歴史の転換期6)  
山川出版社 ¥3,500+税



志垣 瞳  
(名誉教授) 分担執筆  
全集 伝え継ぐ日本の家庭料理  
農山漁村文化協会  
¥2,800+税



石田 慎二  
(教育学部 教授) 分担執筆  
子どもの貧困/不利/困難を考えるIII  
施策に向けた総合的アプローチ  
ミネルヴァ書房 ¥3,800+税



梶本 元信  
(名誉教授) 分担執筆  
ウェールズを知るための60章  
(エリア・スタディーズ175)  
明石書店 ¥2,000+税



伊藤 範子  
(名誉教授) 訳  
エリザベス・ビショップ ー悲しみと理性  
港の人出版  
¥1,800+税



8月

【強化指定クラブ】  
第2回SNSマナー講習会を開催



奈良・東生駒キャンパスにおいて、強化指定4クラブ(硬式野球、ラグビー、女子バレーボール、レスリング)に所属する1年生対象のSNSマナー講習会が開催されました。これは、昨年度から導入した研修会で、近年増えているネット上でのトラブルについて、SNS(Twitter、LINE、Facebookなど)でのネガティブな書き込みの危険性認識、SNSを利用する時のマナーなど、ネット上でのトラブル回避について講習が行われました。

8月7日  
親子向け公開講座「世界に「つだけ」の絵本を作ろう」を開催



奈良・学園前キャンパスの保育演習室で、小学生とその保護者の方が親子で楽しく絵本作りを学びました。自分の名前の頭文字を使って楽しみながら世界に一つしかない絵本を作り、絵本作りを通して思考力、創造力、表現力を磨きました。参加者からは、「楽しみながら学べるし、かけがえのない思い出ができました」「子どもが自分で考えるように学生の皆さんがお手伝いしてくれて楽しかったです」など、多くの好意的な意見が寄せられました。

講師を迎え、近年のグローバル化など複雑化する社会において、これからの日本の信仰について講演いただきました。約150人の参加者からは、「日本人のこころの大切なものが理解できた」などの意見が寄せられました。

10月30日  
令和元年度前期「学長表彰」・教職員教育功績表彰の授与式を行いました

【学長表彰】では、現代生活学部こども学科(現・教育学部こども教育学科)4年の小林華奈江さんが選ばれました。国際ソロプチミスト奈良・まほろばの2019年度女子大学生・女子大学院生奨学金クラブ賞を受賞したほか、小林さんの学業に臨む姿勢さらには、地域の学校ボランティアや所属学科の取り組みである「帝塚山ロボット教室」の実行委員として積極的に活動していたことが高く評価されました。



11月7日  
両キャンパスにおいて、教職員と学生を対象とした避難訓練・消火訓練を実施

今年度も自衛消防隊各班の業務分担も確認する避難訓練として、日常的に利用している建物で実際に火災が発生した場合を想定

8月27日  
「県内大学生が創る奈良の未来事業」公開コンペで本学2チームが発表



奈良県が実施する「県内大学生が創る奈良の未来事業」の公開コンペが奈良県議会本会議場で開催され、本学からは「大和野菜が美味しい!奈良の食文化を世界に発信 SNS(LINE)スタンド」で奈良デザイン(現代生活学部食物栄養学科)と「#シェアセーフティの提案」(大学院心理学研究科・法学部法学科)の2チームが最終審査である公開コンペに臨みました。

9月

9月19日  
奈良県内初「犯罪・非行防止支援自動販売機」(法学部学生によるデザイン)をキャンパスに設置



この自動販売機は、本学法学部3年の首藤真実さんが代表を務める防犯ボランティア組織「あつぷり」が企画・奈良まもりたいに奈良県防犯協会からラッピングデザインの依頼があり、法学部の学生5人が中心となって考案したものです。自動販売機の飲料水の売り上げの一部が奈良県防犯協会へ寄付されるしくみで、寄付金は安全で安心して暮らせるまちづくり推進のための防犯活動資金として運用されます。

9月21日  
関西カメラ女子部とのコラボ企画「レポート」大学ストーリー撮影会を開催

本学と本学卒業生やまぐち千予氏が主宰する関西カメラ女子部の方々とコラボ企画として、「レポート」大学ストーリー撮影会を開催しま



し、混乱なく落ち着いて避難ができるよう訓練することを目的に実施しました。消火器の取り扱い方や避難方法などについて改めて見直す貴重な機会となり、参加した学生や教職員は緊張感を持って真剣に取り組んでいました。

11月8日  
【法学部】「警察組織と警察実務」で奈良県警察遠藤雅人本部長による講義を実施



法学部の特殊講義「警察組織と警察実務」において、奈良県警察の遠藤雅人本部長による講義が行われました。同特殊講義は、警察官をめざす法学部の学生が、警察組織やその実際の活動を理解し、犯罪抑止などに対する警察の最新の取り組みについて学ぶことを目的としており、講義のうち7回は奈良県警察の各部署の現職警察官にご担当いただき、最終講義では警察施設の見学も実施するという、「実学」の帝塚山大学ならではの実践的な内容を取り入れた授業です。

11月17日  
【経済学部】第8回「経済学部ゼミ研究報告会」を実施



経済学部では虹色祭(大学祭)期間中に「ゼミ研究報告会」を実施しました。本報告会は、経済学部3年生が所属ゼミでの平素の研究内容を「プレゼンテーション部門」と「ポスター部門」に分かれて報告するというもので、今年で8回目を迎えた報告会には経営学部3年生からもプレゼンテーション部門に4組の参加がありました。



やまぐち千予氏 提供

した。本学生がモデルとなって、キャンパス内の各所を背景に撮影が行われました。参加者からは、モデル学生の皆さんがきらきら眩しくて、自身の学生時代を懐かしむ、よい機会になりましたと口々に仰っておられました。

9月26日  
令和元年度9月卒業式を挙行



奈良・東生駒キャンパス「まほろば」で執り行われ、5学部9名が学び舎から巣立ちました。

9月28日  
寺島美郎特別客員教授による特別公開講座を開催



近鉄学園前駅の奈良市西部会館市民ホール(学園前ホール)において、寺島美郎特別客員教授(日本総合研究所会長、多摩大学学長)による特別公開講座「転換する世界と令和時代の日本」を開催しました。本学学生、教職員、一般の方々など約270人が参加し、寺島特別客員教授の講演に熱心に耳を傾けていました。

10月29日  
生駒市図書館共催講座「日本人のこころ」を開催

生駒市図書館において、生駒市図書館共催公開講座「日本人のこころ」を開催しました。

11月22日  
独立行政法人都市再生機構(UR都市機構)と西日本本社との連携協力に関する協定を締結



UR都市機構と奈良県内の大学との連携協定は、これが初めてのこととなり、今後、学園前地域の富雄団地・中登美第3団地・奈良学園前・鶴舞団地において、高齢者や子育て世帯など多様な世代に対応したまちづくりや健康づくりに向け、相互の資源を有効活用した連携事業を推進します。締結式では、UR都市機構西日本本社の新居田支社長と蓮花一己学長が協定書に署名し、笑顔で記念撮影に応えました。

12月6日(土)・7日(日)  
奈良・学園前キャンパスにて、イルミネーション点灯式が開催されました



イルミネーション点灯式が催されました。15年目を迎えた奈良・学園前キャンパスイルミネーション。今年のテーマは「Snow night」。現代生活学部の学生を中心としたメンバーで構成されるイルミネーション推進委員会が、今年はクリスマスだけではなく「冬の街並み」のイメージをコンセプトに企画・デザイン。冬の夜の学園前キャンパスは幻想的な空間に演出されました。今年も点灯期間を従来の年末までから年明けの2月までに延長し、冬の夜を暖かく彩ります。

奈良・東生駒キャンパスにおいて、「令和元年度第1回FDフォーラム」を開催しました

9月25日、今年度第1回目となるFDフォーラムは「学生の心に灯をつけられたか? -10年間のUI教育の経験より-」というテーマで、大阪経済大学の前学長である徳永光俊 同大学経済学部教授にご講演いただきました。「自校教育」というテーマから、SD(=スタッフ・ディベロップメント)に関連する内容も多く含まれ、両キャンパスから106名の教職員が聴講しました。徳永先生は、苦節10年に亘る大阪経済大学のUI(ユニバーシティ・アイデンティティ)教育への取り組みについて、「大経大スタイルの確立」を念頭に置き、まずは自学における学生の実態をしっかりと把握し、教職員が学生ファーストで行うことが自校教育の鍵になることを力説、具体的な成功・失敗談を交えて、独自の口調でわかりやすく解説されました。また授業における試験やレポート課題等の工夫点にも触れ、大学の建学の精神や歴史を学ぶだけでなく、新たな大学の伝統を学生らに考えさせることも大切で狙いの一つであると強調されました。私立大学はそれぞれに設立の経緯や理念を有しており、縁あって入学してきた学生や保護者にも大学の歴史や伝統を伝え理解してもらうことが大学にとっていかに大切な、ということに参加者全員が再認識する良い機会となりました。次回は2020年2月に、ICTを活用した教育をテーマとし第2回FDフォーラムの開催を計画しています。帝塚山大学は継続的に教育内容の改善をはじめ、FD・SD活動に積極的に取り組んでまいります。

第55回虹色祭・ホームカミングパーティを開催しました

11月16日・17日の2日間、奈良・東生駒キャンパスにおいて、第55回「虹色祭」(大学祭)を開催しました。今年のテーマは「魁【さきがけ】」。ご来場のお客様、学生たち、教職員、皆さまにとって新しい時代を走れるようにと実行委員スタッフが想いを込めて設定しました。活気にあふれたイベント、クラブ・サークルによる発表、工夫を凝らした模擬店に多くのお客様が訪れました。ステージでは井上苑子さんによるライブステージや、お笑いライブ、本学卒業生によるアカベラサークル公演が行われ、フィナーレの「帝塚山大学ミスコンテスト」では、5名の候補者がミス帝塚山の座を競いました。今年で8回目を迎えるホームカミングパーティでは、久々に学び舎に戻った卒業生たちが、食事をしながら教員や友人たちとの再会を楽しみました。最後は毎年恒例の打ち上げ花火。音楽に合わせて夜空を彩る花火に大きな歓声があがり、皆が名残を惜しむ中、第55回虹色祭は閉幕となりました。



公開講座・一般公開

文部科学省平成29年度私立大学研究ブランディング事業採択『帝塚山プラットフォーム』の構築による学際的『奈良学』研究の推進  
本事業の最終年度にあたる今年度の最後に、これまでの研究成果を報告します。

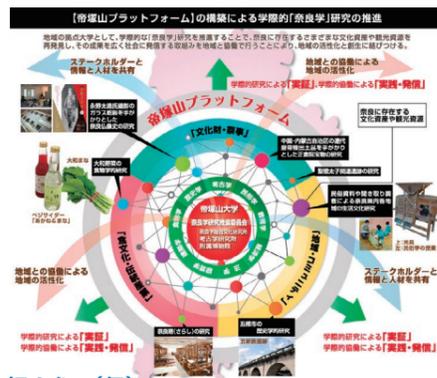
**公開講座**  
奈良学フォーラムを開催

開催期間 令和2年3月14日(土)10時~16時 申込:要 聴講無料

【場所】奈良春日野国際フォーラム 能楽ホール  
~1・RA・KA~能楽ホール

**【同時開催】**  
奈良学展示

【場所】能楽ホールロビー  
【時間】11時~15時



**一般公開**

仏像-永野鹿鳴荘ガラス乾板より-(仮)

開催期間 令和2年3月4日(水)~3月29日(日)  
【場所】東京・JCIフォトサロン(日本カメラ博物館)

大和路の仏にであう-奈良に生きた写真家・永野太造と仏像写真-

開催期間 令和2年3月4日(水)~6月14日(日)  
【場所】東京・半蔵門ミュージアム

お知らせ

**学長プロジェクト**

学生から蓮花学長へ  
キャンパスグッズを  
提案・制作

現代生活学部居住空間デザイン学科 新海俊一准教授と同学科2年生 能城 紗英さんが立案・提案した実用的なキャンパスグッズとして「クールでアメイジングTZK(テツカ)クリアファイル」を制作しました。これは、自校教育と大学広報に資することを目的としています。

同上の写真のとおり、クリアファイルに資料を挟むとTZK(テツカ)の文字が浮かび上がり、何も入れない場合は本学の沿革が映り、自校教育の一環として活用できます。

能城さんは「帝塚山大学の学生が、学内外で堂々とこのクリアファイルを持ち歩き、自校へのプライドを持ってほしい」と語っています。

本クリアファイルは、次年度の新入生に配布される予定です。



文部科学省平成29年度私立大学研究ブランディング事業採択『帝塚山プラットフォーム』の構築による学際的『奈良学』研究の推進」最新の取り組み

▼特別企画展示「絵と道具でたどる昔の奈良のくらし」  
文部科学省平成29年度私立大学研究ブランディング事業の一環として、9月21日~12月1日に亘り、特別企画展示「絵と道具でたどる昔の奈良のくらし」(於:奈良県立民俗博物館)を開催しました。  
本特別企画展示は、郷土の風俗慣習や生活の推移への理解を深めることを目的に、天理市福住で生まれ育った故・永井清繁氏が昔の奈良の暮らしを描いた生活絵図のパネルを、奈良県立民俗博物館の常設展示とともに展示したものです。  
展示期間中の11月16日に行われた「みんなく秋まつり」では、約40人の文学部の学生と人文科学研究科の大学院生が昔の暮らしを学ぶ体験型イベントを一日学芸員として運営しました。  
学生らは、生活絵図に描かれた100年ほど前の奈良の農村部に住む人や職人の格好に扮して、展示解説や昔の暮らしに関するクイズに答えるスタンプリングなどを実施しました。  
博物館での体験型イベント開催にあたり、学生は大学院生と協力しながら幅広い年齢層の方に楽しんでいただける企画を、一から練り上げ、準備してきました。  
学芸員などの専門職をめざす文学部の学生にとって、実践的な環境下で、専門知識にもとづく企画力や発信力を鍛える良い機会となりました。



昔の格好に扮し展示解説する学生

▼「奈良学への招待」公開講座の開催  
10月19日より奈良・東生駒キャンパスにおいて公開講座「奈良学への招待XV」を開催しました。2002年度から開始した本講座も今回の18回目。全4回の連続講座で初回は文学部の鷲森浩幸教授が「大和」とみ「地域の古代史」、第2回は11月2日に現代生活学部の新宅賀洋教授が「大和野菜の魅力」、第3回は11月9日に文学部の牟田口章人教授が「絢爛豪華華騎馬民族の宮廷生活」発掘でわかった契丹王朝」、第4回は11月23日に中野聡講師が「薬師寺金堂薬師三尊像の制作年代と機能」の演題でそれぞれ講演を行いました。  
文部科学省・私立大学研究ブランディング事業の一環で取り組む各事業の進捗状況の報告を兼ねた本公開講座を通して、本学の特色である「学際的『奈良学』研究」を地域の人々に広く紹介する機会となりました。



鷲森教授(奈良学総合文化研究所長)講演の様子

▼大和野菜スイーツを開発  
10月20日、やまと郡山城ホールでの第8回大和郡山良い食品博覧会において、私立大学研究ブランディング事業で大和野菜の栄養学的研究を進める食物栄養学科管理栄養士養成課程の佐伯孝子准教授のゼミ生らが開発したオリジナルレシピによる大和野菜スイーツを出品しました。  
大和郡山市の洋菓子製造販売会社「菓楽」と連携し、開発したのは大和まなみのシフォンケーキをはじめとする4種類。大和野菜だけでなく奈良県産の素材を使用するなど地産地消にこだわったオリジナルスイーツは来場者の関心も高く人気を博しました。  
佐伯准教授とゼミ生は、大和野菜のオリジナルスイーツ以外にも、季節の大和野菜の簡単レシピを地元ケーブルテレビのHPで配信するなど、大和野菜の普及活動に取り組んでいます。学生はこれらのレシピ開発を通して、時間や費用に制限のあるなかで、味や栄養的にも魅力のある商品を開発することの難しさに触れ、大きく成長しています。  
食と栄養のスペシャリストをめざす食物栄養学科の学生たちにとって、ブランディング事業は社会での実践力を磨く良い機会になりました。



販売の様子

「第2回帝塚山大学フォトコンテスト」を開催



帝塚山大学では、「Campus Life ~はじまりの季節~」をテーマに「第2回帝塚山大学フォトコンテスト」を開催しました。学生・教職員に帝塚山大学のキャンパスの素晴らしさを再認識してもらいたいという蓮花一学長の思いにより2018年度からスタートした学長プロジェクトです。

学生・教職員あわせて255点もの応募があり、その中から、厳正なる審査の結果、下記8点の作品が入賞しました。7月17日(水)、奈良・学園前キャンパス14号館学生ホールにおいて、表彰式が執り行われました。

表彰式の後には、プロのカメラマンとして活躍中のやまぐち千予氏(本学卒業生:PIYOCAMERA写真事務所 代表)により、出席した受賞者一人ひとりに対して丁寧な作品の講評をいただき、その場にいた学生たちは皆、プロならではのアドバイスに真剣に聞き入っていました。

◆グランプリ(1点)

撮影者:宮武 依梨佳さん  
(現代生活学部  
居住空間デザイン学科2年)  
タイトル:羽ばたく



◆特選(2点)

撮影者:中正智さん  
(経済学部経済学科3年)  
タイトル:初夏の到来  
  
撮影者:小松 未来さん  
(現代生活学部  
居住空間デザイン学科1年)  
タイトル:初めましての  
お昼ごはん

◆入選(3点)

撮影者:相心平さん  
(経営学部経営学科4年)  
タイトル:また、明日

撮影者:水内 野々華さん  
(現代生活学部  
居住空間デザイン学科2年)  
タイトル:新緑の季節

撮影者:西本 恭輔さん  
(現代生活学部  
居住空間デザイン学科3年)  
タイトル:何気ない昼休み



◆佳作(2点)

撮影者:能城 紗英さん  
(現代生活学部  
居住空間デザイン学科2年)  
タイトル:終わりと始まり

撮影者:土本 多朗さん  
(教育学部子ども教育学科1年)  
タイトル:夢に向かって



# 国際交流

## ★海外留学奨学生

海外留学奨学生として9月から1年間、ニュージーランドのクライストチャーチ工科大学(Ara)に留学中の法学科2年生・間佐古楓さんにお話を伺いました。

### ◆現在の状況

学年トップクラスの成績ですが、Araは所属する集中英語コースで留学早々10月のStudent of the Month Awardに選ばれ、これが自信となり積極的に話せるようになりました。先生だけでなくクラスメイトとも会話が少しずつ弾むようになってきており、かなり頼られているかな、と感じています。

### ◆留学について

中学生の頃から憧れていましたが、高校の修学旅行での初めての海外渡航が大きなきっかけでした。留学の可能性もある1年留学ですが、英語力・コミュニケーション能力向上を図りながら、異文化やさまざまな価値観に触れコミュニケーションの輪を拡げたい、という目標があり、母親、友人、高校時代の塾の先生といった方々に背中を押され決断しました。留学後は日本語、英語どちらでも自分の言葉で自信を持って意見を述べられるようになること、今まで挑戦したことのない分野にチャレンジすることが目標です。

### ◆英語の準備

実用英語技能検定やTOEIC向けの4技能対策、留学直前に2ヶ月間通った英会話スクールなど。今回の留学でIELTS※取得を目指し

ています。

### ◆NZでの生活

思っていたほど言いたいことがさつと言えない、聞き取れないという壁に当初ぶつかりましたが、ホストファミリーとは簡単な会話を交わせるようになってきました。でも、バスが定刻に来ない、アナウンスが全くないことなどは衝撃的でした。

### ◆留学を考えている方へ

少しでも留学に興味があれば、チャレンジして損はないと思います。なかなかない経験ですし自発性も問われますが、伝えたいことがうまく伝わった時や成長が実感できた時の感動はかなりのものです。

着々と我が道を行く印象の間佐古さん。将来が楽しみな学生です。

※IELTS…イギリスを中心に進学、移住の際の英語力評価に使われている。



法学科2年生の間佐古楓さん(左端)を紹介します。



Student of the Month Award

## 2020年度 学部入試日程一覧

入試制度	出願期間			試験実施日	合格発表	
	開始	終了 (最終日消印有効)	窓口受付日※1			
一般入試	A日程前期	12月23日(月)	1月18日(土)	1月20日(月)	1月23日(木) 1月24日(金)	2月1日(土)
	A日程後期		1月30日(木)	1月31日(金)	2月2日(日)	2月7日(金)
	B日程	1月21日(火)	2月14日(金)	2月15日(土)	2月18日(火) 2月19日(水)	2月23日(日)
	C日程	2月12日(水)	2月28日(金)	2月29日(土) 3月2日(月)	3月4日(水)	3月8日(日)
大学入試センター試験利用入試	前期	12月23日(月)	1月30日(木)	—	個別学力検査は実施しません。	2月7日(金)
	後期	2月12日(水)	2月28日(金)	—		3月8日(日)

※1 願書の窓口受付は奈良・東生駒キャンパス入試課でのみ受け付けます。  
(平日) 9:00~17:00 (土曜日) 9:00~13:00

入試制度	出願期間			試験実施日	合格発表	
	開始	終了 (最終日消印有効)	窓口受付日			
帰国生・外国人生徒試験	後期	1月14日(火)	1月27日(月)	—	2月18日(火)	2月23日(日)
外国人留学生試験						
AO入試	3月	2月25日(火)	3月6日(金)	3月7日(土)	3月11日(水)	3月12日(木)
ファミリー入試※2	3月	2月25日(火)	3月6日(金)	3月7日(土)	3月11日(水)	3月12日(木)

※2 学校法人帝塚山学園が設置するいずれかの学校(幼・小・中・高・大・大学院と短大)の卒業生もしくは在校生、在学生の2親等以内の親族(兄弟姉妹、子、孫など)を対象とした入試です。詳しくは入試課までお問い合わせください。

### 【お問い合わせ先】 帝塚山大学 入試課

Tel 0742-48-8821(直通) ✉ nyushi@jimu.tezukayama-u.ac.jp

## 2020年度 大学院入試日程一覧

博士前期課程・博士後期課程

出願期間 **1月24日(金)~1月31日(金)**

締切日消印有効

選考日程 **2月13日(木)※合格発表 2月20日(木)**

※選考方法等については、右記までお問い合わせください。

### お問い合わせ先

#### 人文科学研究科 日本伝統文化専攻

〒631-8501 奈良市帝塚山7丁目1-1

Tel 0742-48-8150 [教学支援課(文学部)]

#### 心理科学研究科 心理科学専攻(心理学専修・臨床心理学専修)

〒631-8585 奈良市学園南3丁目1-3

Tel 0742-41-4720 [教学支援課(心理学部)]



### 「大学通信帝塚山」企画・編集委員会

〒631-8501 奈良市帝塚山7-1-1 Tel 0742-48-9192 Fax 0742-48-6092

✉ koho@jimu.tezukayama-u.ac.jp URL: https://www.tezukayama-u.ac.jp/

卒業生のお問い合わせ先: 帝塚山大学同窓会わかみどり会 Tel 0742-48-6157 (平日10時~15時)